

## 日本OR学会賞

2015年度学会賞のうち、業績賞・普及賞・実施賞・特別賞について、表彰委員会で選考のうえ、理事会にて以下のとおり承認されました。

各賞は2016年3月17日の春季研究発表会（慶應義塾大学矢上キャンパス）にて授与されました。

### 第17回 業績賞

・該当なし

### 第41回 普及賞

#### ● 山下勝比拡 氏（元（株）東芝）

##### [選考理由]

山下勝比拡氏は1979年（株）東芝入社後、鉄鋼・石油精製部門等でコンピュータ管理・制御システム開発設計に広く従事され、最適手法・システムモデリング手法・知識工学的手法を生産／製造現場に広く適用することによりORを実践されてきた。東工大・熊本大などでOR関係の講義を担当して若手を育成し、またOR学会においては、機関誌編集委員、副編集長、理事、副会長などを歴任され、学会の活性化とORの普及に大いなる貢献をされてきた。これらの活動は本学会普及賞に相応しいと判断し、授与することに決定した。

#### ● 鈴木久敏 氏（筑波大学名誉教授）

##### [選考理由]

鈴木久敏氏は1976年東工大博士課程進学時より筑波大学定年退職まで一貫してORの研究と普及に従事されてきた。たとえば事例研究として「NC工作機械の最適工具モジュール設計」など多大な業績がある。また鈴木氏が執筆したORの優れた教科書で勉強したOR研究者・実務家は数多い。OR学会においては、庶務・研究普及・無任所理事などを歴任され、学会の活性化とORの普及に大いなる貢献をされてきた。これらの活動は本学会普及賞に相応しいと判断し、授与することに決定した。

#### ● 香田正人 氏（筑波大学名誉教授）

##### [選考理由]

香田正人氏はロケット・サイエンスをバックグラウンドとし、OR分野におけるデータマイニング・機械学習・サービス科学の研究と普及に尽力された。特に、分布定数系・確率微分方程式系・複雑系に関するシステムモデルの感度分析と最適化について広く研究されてきた。OR学会においては、庶務・研究普及・国際理事・副会長等を歴任され、学会の活性化とORの普及に大いなる貢献をされてきた。これらの活動は本学会普及賞に相応しいと判断し、授与することに決定した。

● 株式会社ブレインパッド

【選考理由】

株式会社ブレインパッドは2004年設立以来、データ分析サービスなどを通じて、クライアント企業のビジネス課題解決を支援してきた。特にインターネット・マーケティング分野では、ORや数理科学技術を駆使した大規模データ分析により、より効率の高いマーケティング施策のためのシステム提供を行っている。特に、「検索連動型広告入札価格の最適化」および「TVコマーシャル出稿の割当最適化」は新しい数理計画の実務への応用として大きな成果を上げ、高く評価されている。これらの実績は本学会実施賞に相応しいと判断し、授与することに決定した。

日本オペレーションズ・リサーチ学会 特別賞

● 山元順雄 氏（公益財団法人日本グローバルインフラストラクチャー研究財団理事長）

【選考理由】

山元順雄氏は日本グローバルインフラストラクチャー研究財団に当初から理事として参画され、その後同財団の理事長として、インフラ問題をめぐる精力的な活動を国際的に展開され、今日に至っている。同財団は、当時三菱総合研究所の社長の中島正樹氏が、途上国発展のための大規模インフラストラクチャーへの投資の重要性を提唱したことを発端として1990年に設立されたものである。

山元氏は森口繁一先生が1982年に起ち上げた研究部会『第三世界とマイコン』に、森口先生から特に招かれ、参画された。その時から今日に至るまで、一貫してORに対する深い理解と期待を示されている。特に森口研究部会の後継研究部会である『巨大プロジェクトに関するOR』（主査：柳井浩先生）に始まり、今日に至るまでのインフラストラクチャーに関する研究部会に研究委託をされ続けてきた。会場場所の提供、今日的・国際的な研究課題の提案、データや種々の研究資料の提供、国内外の人脈の紹介、といった実に多面的な支援を常に真摯に続けられてきた。山元氏の物心両面の支援の下で、多くの若手研究者が育成されてきた。ここに感謝の意を表し「日本オペレーションズ・リサーチ学会特別賞」を授与することに決定した。

\*\*\*\*\*

【2015年度表彰委員】

山下英明（委員長・首都大学東京）、村松正和（電気通信大学）、猿渡康文（筑波大学）、栗田治（慶應義塾大学）、滝根哲哉（大阪大学）、西川武一郎（(株)東芝）、水野眞治（東京工業大学）、吉瀬章子（筑波大学）、関谷和之（静岡大学）